

安全報告書



伊勢鉄道株式会社

2019

1 お客様はじめ地元の皆さまへ

平素は伊勢鉄道をご利用いただくとともに、弊社の業務運営にご理解・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2018年度は、台風や落雷などの悪天候に伴う輸送障害により、ご利用のお客様にご迷惑をおかけしたものの、安全目標に掲げる鉄道運転事故及びインシデントの発生はなく、概ね安定した輸送を提供することができました。これは、当社の「安全基本方針」を社員一人ひとりが自覚し、一丸となって取り組んだ結果として達成できたものと考えております。

今後とも、「安全基本方針」に基づく業務を徹底することで、「伊勢鉄道が安全で安心できる鉄道」として、より多くのお客様にご利用いただけますよう、全社員が一丸となって事故防止に努めてまいります。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、輸送の安全確保のための取組みや安全の実態について、自ら振り返るとともに、広く皆さまにご理解いただくために公表しているものです。

皆さまの声を輸送の安全に生かしてまいりますので、ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せください。

伊勢鉄道株式会社
代表取締役社長 石垣 英一

2 基本方針と安全目標

(1) 基本方針

安全輸送の確保は経営の根幹であり、「安全基本方針」を次のように掲げ、社長以下全社員に周知・徹底しております。

安全基本方針

1. 全社員一丸となって、輸送の安全の確保に努める。
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程を遵守し、厳正なる業務遂行に徹する。
3. 確認の励行に徹し、疑わしいときは最も安全と思われる取扱いを行う。
4. 事故・災害等が発生したときは、列車防護・人命救助を最優先に行動し、情報連絡を確実にを行う。
5. 常に問題意識をもち、必要な変革を行う。

(2)安全目標

当社は「安全基本方針」を受けた以下の「輸送安全目標」を定め、日々輸送の安全確保に取り組んでいます。

輸 送 安 全 目 標

1. 列車事故（衝突・脱線・火災）及びインシデントを発生させない。
2. 踏切障害事故を発生させない。
3. 人身障害事故を発生させない。

※インシデント：鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事態

2018年度は、上記に掲げる鉄道運転事故やインシデントの発生はありませんでした。

2019年度も以下の安全重点実施計画に取り組み、安全の確保に努めていきます。

<2019年度 安全重点実施計画>

項 目	内 容
事故防止意識の高揚	○「ヒヤリ・ハット」の収集と活用 ○現場の巡回点検・添乗による社員の安全意識醸成 ○事故情報の共有化 ○工事前の事前確認、工事開始時のKYT実施 ○社内安全監査の実施
基本動作の徹底及び規程の遵守	○基本動作・マニュアルの整備と、その遵守の指導 ○巡回・添乗などの業態確認の強化 ○躊躇なく安全確保の処置を行えるよう、繰り返しの訓練を実施 ○ドア扱いに係る事故の防止
教育の徹底	○社員個々の知識・技術のレベルに合った教育訓練の実施 ○接客サービス向上に資する訓練の実施 ○過去事例の活用による同種事故の撲滅 ○若手社員の確実な育成
異常時における速やかで的確な対応	○運転規制の取扱いを確実に実施する体制の維持 ○危機管理要綱に沿った対応の徹底と異常時対応能力の強化 ○JR東海との異常時合同訓練の実施 ○避難誘導の体制整備と訓練の実施 ○「防護・救護・連絡」の大原則の継続指導
安全安定輸送設備の改良	○設備機器の保守・点検の確実な実施 ○経年設備の更新による信号保安システムの機能維持 ○安全で確実な工事施行 ○軌道関係の検査・点検の実施

3 事故等の発生状況と再発防止措置〈2018年度〉

(1) 鉄道運転事故(「鉄道事故等報告規則」に規定する事故)

鉄道運転事故の発生はありませんでした。

(2) 輸送障害(30分以上の遅延や運休)

平成30年 7月28日	台風12号の影響により運転休止12本
平成30年 8月12日	落雷による信号装置のダウンにより運転休止14本
平成30年 9月 4日	台風21号の影響により運転休止61本
平成30年 9月30日	台風24号の影響により運転休止99本

(3) インシデント(鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事態)

インシデントの発生はありませんでした。

(4) 行政指導等

国土交通省からの行政指導はありませんでした。

4 輸送の安全確保のための取組み

(1) 重点安全施策(安全関連投資)

2018年度は、まくら木更新(259本)、盛土のり面改良(河原田～鈴鹿間108m)、高架橋表面保護工施工(1箇所)、玉垣駅ホーム改良、電気ポイント更新(9基)などの安全設備関連工事に合計で約99百万円を投入し、これらは計画通り完了しました。

一方で、車両の全般検査(1両・費用約25百万円)については、検査において、動力を伝達する歯車の一部に損傷が見つかり、交換用部品の製造に時間を要するため、完了は次年度に持ち越すこととなりました。



橋まくら木



継目用まくら木



盛土のり面改良



高架橋表面保護工施工



玉垣駅ホーム改良



電気ポイント更新



車両全般検査（継続中）

2019年度につきましては、レール更新（合計601m）、盛土のり面改良（河原田～鈴鹿間135m）、トンネル特別全般検査（1箇所）、上屋塗装更新（3駅）、ホーム照明等更新（3駅）、電話機等更新（本社他）などの安全設備関連工事と、車両の全般検査（前年度から継続中の1両と今年度分1両）等の保全関連工事を計画しており、今後とも安全の維持・向上に向けて各種設備の整備・改良に積極的かつ着実に取り組んでまいります。

(2)人材教育

当社では、安全目標を達成するための「安全重点実施計画」を定め、それをもとに駅（運転指令業務）、機関区（運転士）、工務区等の関係部署がそれぞれに詳細な年間計画を策定し、毎月（運転士・工務関係社員）及び四半期ごと（駅関係社員）に訓練会・勉強会を開催して知識・技能の向上を図っています。

また、新入社員や若手社員の育成・技術継承にも取り組んでいます。



新規運転士養成



レール応急処置器取扱訓練

その他、国土交通省や中部鉄道協会等の主催で開催される、安全管理や専門的な知識・技能の向上を目指す研修会等にも積極的に参加し、社員のスキル向上に努めています。

(3)異常時対応訓練

毎年1回、JR東海と合同で、運転事故や災害等の異常時を想定した訓練を実施しています。

2018年度は伊勢鉄道から10名が参加し、河芸～津間で軌道短絡が発生し、通常的信号機を使用した運転が不能になったことを想定して指導通信式を施行する訓練を、営業列車終了後の夜間に実際の列車を使用して実施しました。補助制御盤の取扱い、分岐器の鎖錠、手信号の現示など、両社の指令と現場係員が実際の取扱いを行う中で会社間にまたがった情報連絡方等の訓練を実施し、異常時対応能力の向上を図りました。



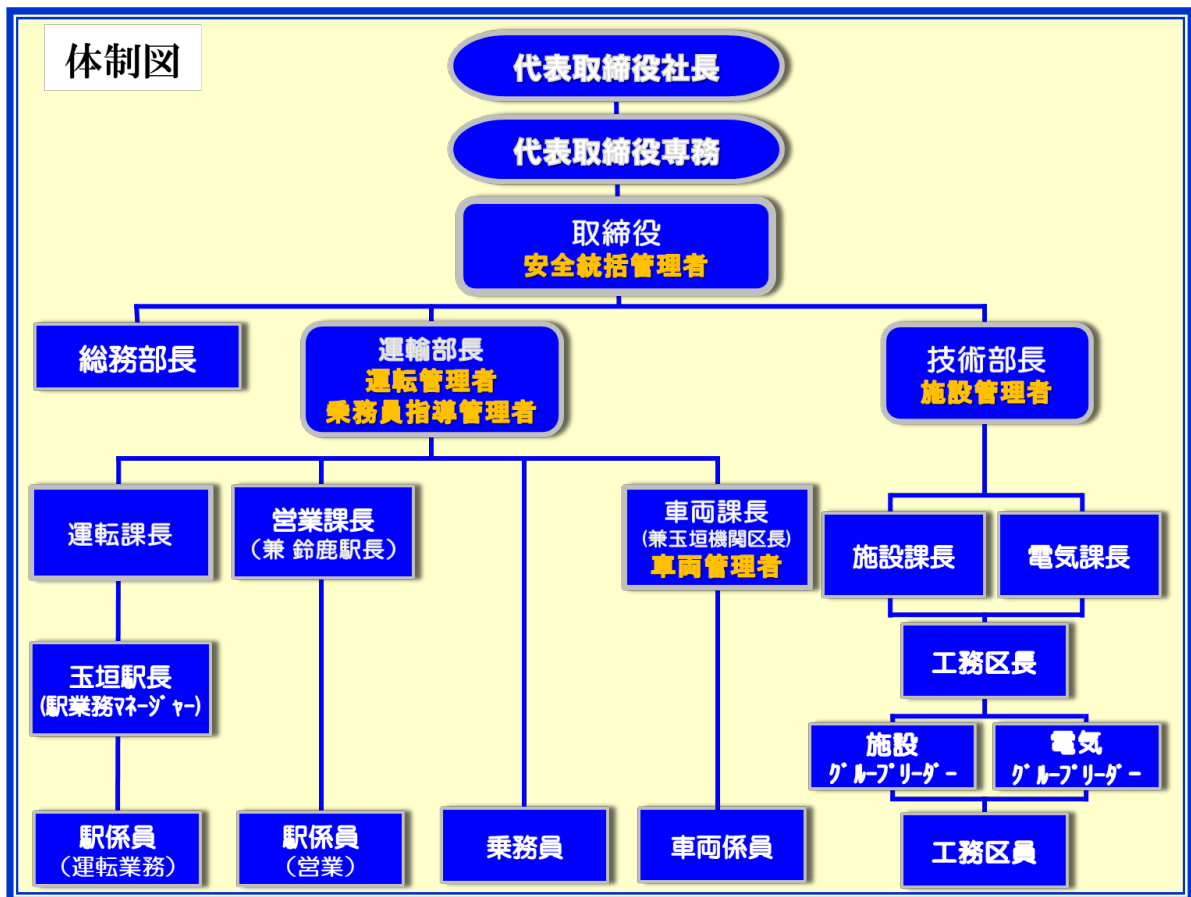
補助制御盤取扱



JR駅員から伊勢鉄道運転士への通告

5 当社の安全管理体制

社長をトップとする安全管理体制を構築し、各責任者の責務を明確にしております。また、毎月1回、安全対策会議を開催し「事故の芽を摘む」意識で、過去事例の検証や、「事故のたね」である「ヒヤっとした・ハットした」出来事の記録を活用し、現状の問題点の抽出・改善策等を話し合い、安全度の更なる向上に努めています。



< 役職・役割 >

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
車両管理者	運転管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。
施設管理者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。

6 お客様や地元の皆さまとの連携とお願い

(1) お客様からのご意見

より安全で信頼される鉄道をつくるため、当社ホームページへのメールや電話等によりお寄せいただいたご意見を役立てております。お気軽に下記連絡先までご意見をお寄せください。

(2) 沿線にお住まいの皆さまへ

安全な列車運行を行うためには鉄道施設の工事がが必要です。

極力、ご迷惑をおかけしないよう努めておりますが、工事による騒音や振動でご不便をおかけすることもあるかと思っております。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

(3) 列車妨害防止のお願い

2018年度は、置石や線路内への自転車放置といった列車妨害の発生はありませんでした。

高速で列車が走行する線路敷地内への立ち入り・いたずらは、列車との触車死亡事故や列車脱線事故にも直結する非常に危険な行為ですので、線路付近で遊んでいる児童等を見かけられましたら、線路内へは決して立ち入らないよう、引き続き注意・指導をお願いいたします。



交通安全啓発活動

7 ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の安全への取組みに対するご意見をお寄せください。

伊勢鉄道株式会社

TEL 059 - 383 - 2112 (FAX も同番号)

E-mail anzen@isetetu.co.jp

ホームページ <http://www.isetetu.co.jp/>